



年頭のご挨拶

内閣府沖縄総合事務局長
三浦 健太郎



令和7年の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

昨年は、11月に本島北部の大雨による災害が発生しました。被害を受けられた地域の皆様のご心労やご不便はいかばかりであったかと思います。沖縄総合事務局におきましては、被災した自治体とのホットライン構築、災害対策用機械の派遣などの支援を行ってまいりました。被災地の皆様に一日も早い平穏な日々が訪れますことを心から祈念いたします。

さて、昨年を振り返りますと、物価上昇が賃金上昇を上回る中で、日本経済が緩やかに回復していく一年となりました。沖縄も、全国同様緩やかな経済回復が続いており、特に主要産業である観光業においては、国際航空路線やクルーズ船の再開・新規就航が進展するなど、国内・国外客を合わせた入域観光客数も着実に回復しております。他にも、昨年末には沖縄の泡盛を含む日本の「伝統的酒造り」がユネスコ無形文化遺産に登録されるといった喜ばしいニュースもありました。また、本年には北部地域でのテーマパーク開業による新たな観光需要も予測されていることなど、このような明るい材料を端緒として、沖縄全体の更なる振興につながることを期待しております。

現在、令和8年の完成を目指して復元整備を進めている首里城は、沖縄の歴史・文化の象徴でもあり、一日も早い復元が望まれているところです。復元整備に当たっては来園者の皆様に満足していただくため、「見せる復興」をテーマとして取り組んでおり、様々な情報発信や体験型イベントの開催などを行っております。まさに「今」しか見ることのできない、貴重な首里城の姿をご覧いただきたいと思います。

沖縄は観光の他にも、亜熱帯の温暖な気候を生かした農水産物や、地理的不利性の影響を受けにくいIT関連産業など、より一層の発展を予感させる様々な可能性があります。また、世界最高水準の教育研究が行われている沖縄科学技術大学院大学(OIST)では、研究成果を活用したスタートアップ創出に向けた取組が引き続き進められております。更に、今後の跡地利用のモデルケースとなるよう整備が進められている沖縄健康医療拠点においては、教育・医療・福祉が融合した分野横断的な研究が行われることも期待されております。

沖縄総合事務局としましては、国民生活・産業活動の基盤となる社会資本の整備を着実に進めるとともに、沖縄の持つアジアの玄関口に位置する地理的特性などの他県にはない優位性、潜在力を活かしながら、「強い沖縄経済」の実現に向け、日本経済の牽引役となるよう、様々な施策に職員一丸となって取り組んでまいります。県民の皆様の変わらぬご支援をお願い申し上げます。

本年が皆様にとりまして、希望に満ちた輝かしい一年となりますよう心から祈念し、私の年頭の挨拶とさせていただきます。